
敦賀発電所2号炉
敷地の地形, 地質・地質構造
K断層の活動性及び連続性評価
コメント回答資料3
その他のコメント回答

令和5年10月6日
日本原子力発電株式会社

余白

目次

1. コア観察カード記事欄に記載された×印に関する説明について…………… 5

余白

1. コア観察カード記事欄に記載された×印に関する説明について

コメントNo.50

コア観察カードの記載に×印が付いている記事について、×印が付いた理由を整理すること。

(第916回審査会合, 令和2年10月30日)

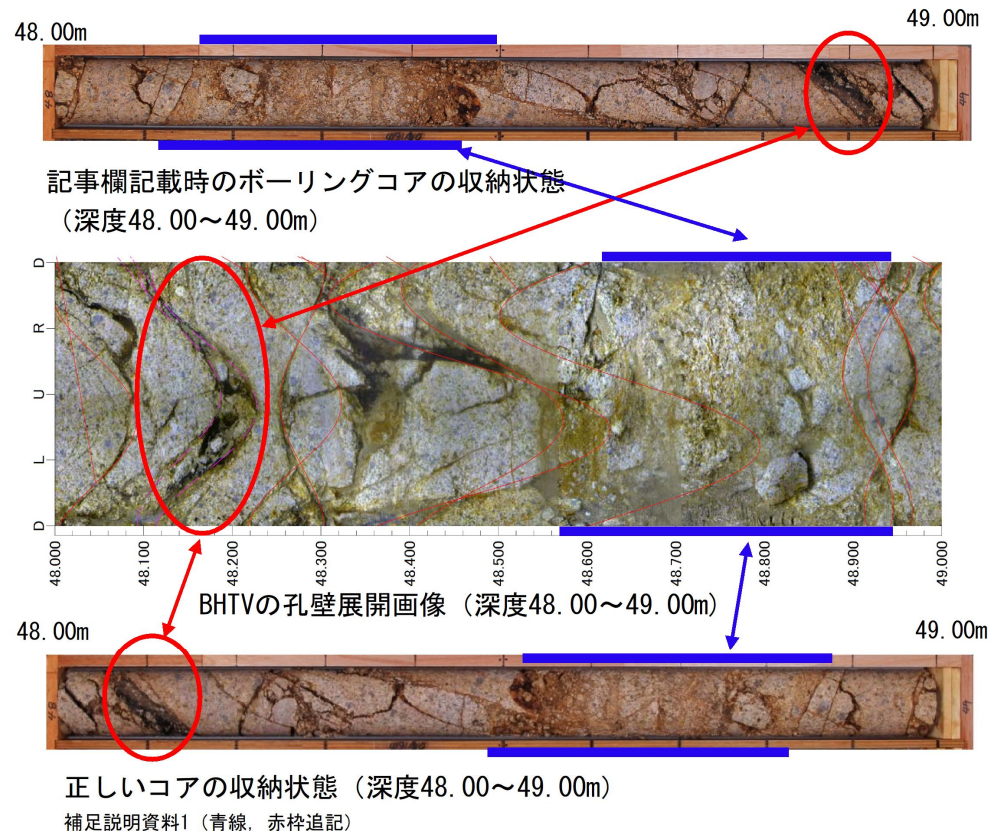
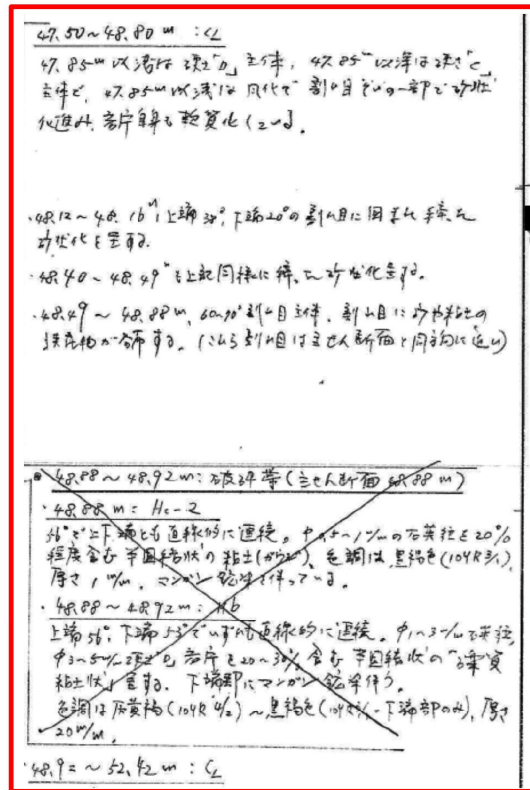
(回答)

第916回審査会合にて提示したボーリンク柱状図の元データに記載されていた×印(3箇所)について、記載された理由を整理した。

余白

① H27-B-2孔 深度48.88～48.92m

- H27-B-2孔 深度48.88～48.92mの破砕部の記事に記載された×印については、ボーリングコアとポアホールテレビ(BHTV)による深度の整合性確認の際に、ボーリングコアの上下が逆転した状態でコア箱に収納され、観察したものであることが判明したことから、コア観察カードに記載した深度等を見直すために付けられたものであった。
- ポアホールテレビ(BHTV)及びコア写真に基づき、ボーリングコアが上下逆転して収納されていたことを下記に示す。なお、ポアホールテレビ(BHTV)とボーリングコアの対比は、破砕部及び粗粒な区間に着目して行っている。
- 48.00～49.00mの全範囲に×印を付けることが適切であったが、当該範囲で重要なマーカーとなる破砕部の箇所を代表させて×印を付けていた。



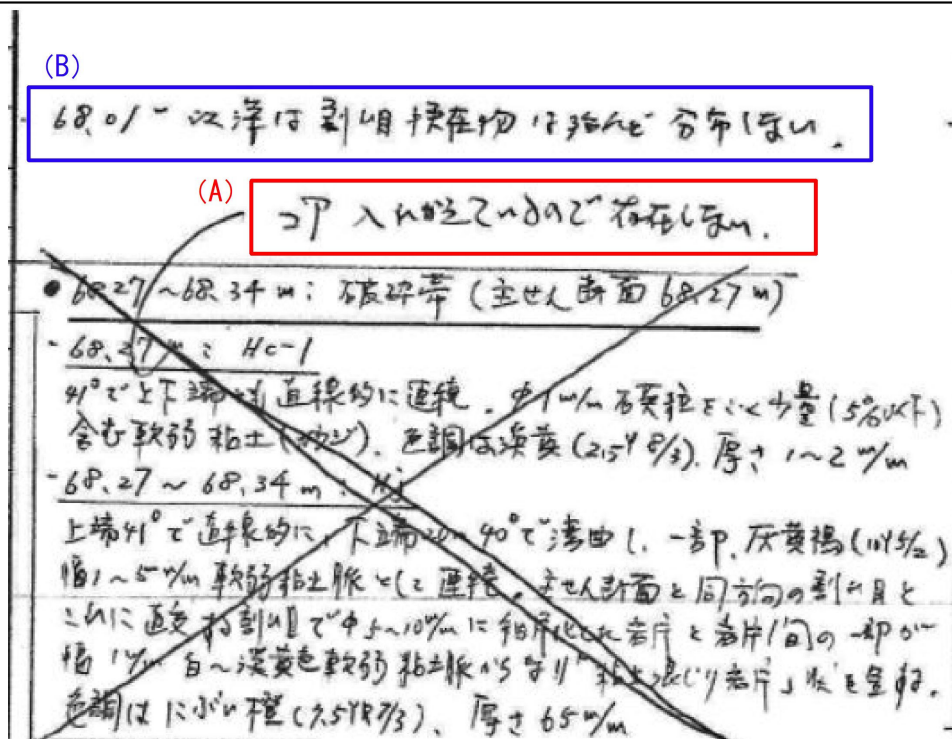
第916回審査会合 机上配布資料1で示したコア観察カード
(赤枠追記)

○ : 破砕部

— : 粗粒な区間

②H27-B-2孔 深度68.27~68.34m(1/4)

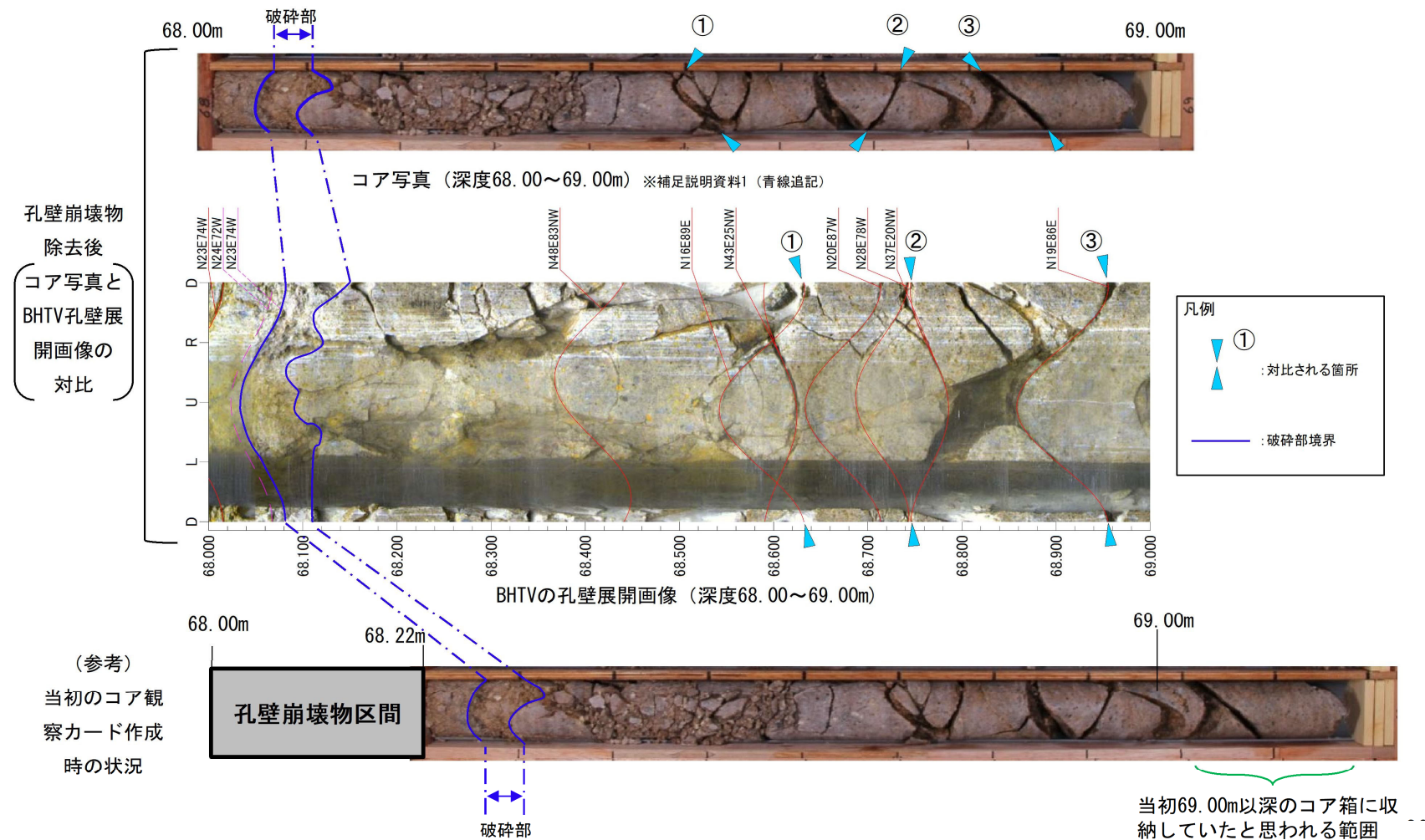
- H27-B-2孔 深度68.27~68.34mの記事に記載された×印については、コア観察カード作成時に実施したボーリングコアとボアホールテレビ（BHTV）による深度の整合性確認の際に両者の深度のずれ量が大きかった（詳細は次頁参照）ため、当該箇所
の状況を再確認したところ、深度68.00~68.22m区間については孔壁崩壊物であると判断したため、×印を付けたものであ
った。
- 孔壁崩壊物の除去を行ったため、コア観察カードには「コア入れかえているので存在しない。」との記載を追記した。(A)
- また、「68.01m以深は割れ目挟在物は殆んど分布しない。」との記載については孔壁崩壊物に関する記事であり、×印を付
けることが適切であったが、当該範囲で重要なマーカーとなる破砕部の箇所を代表させて×印を付けていた。(B)



第916回審査会合 机上配布資料1で示したコア観察カード (赤枠、赤字、青枠、青字追記)

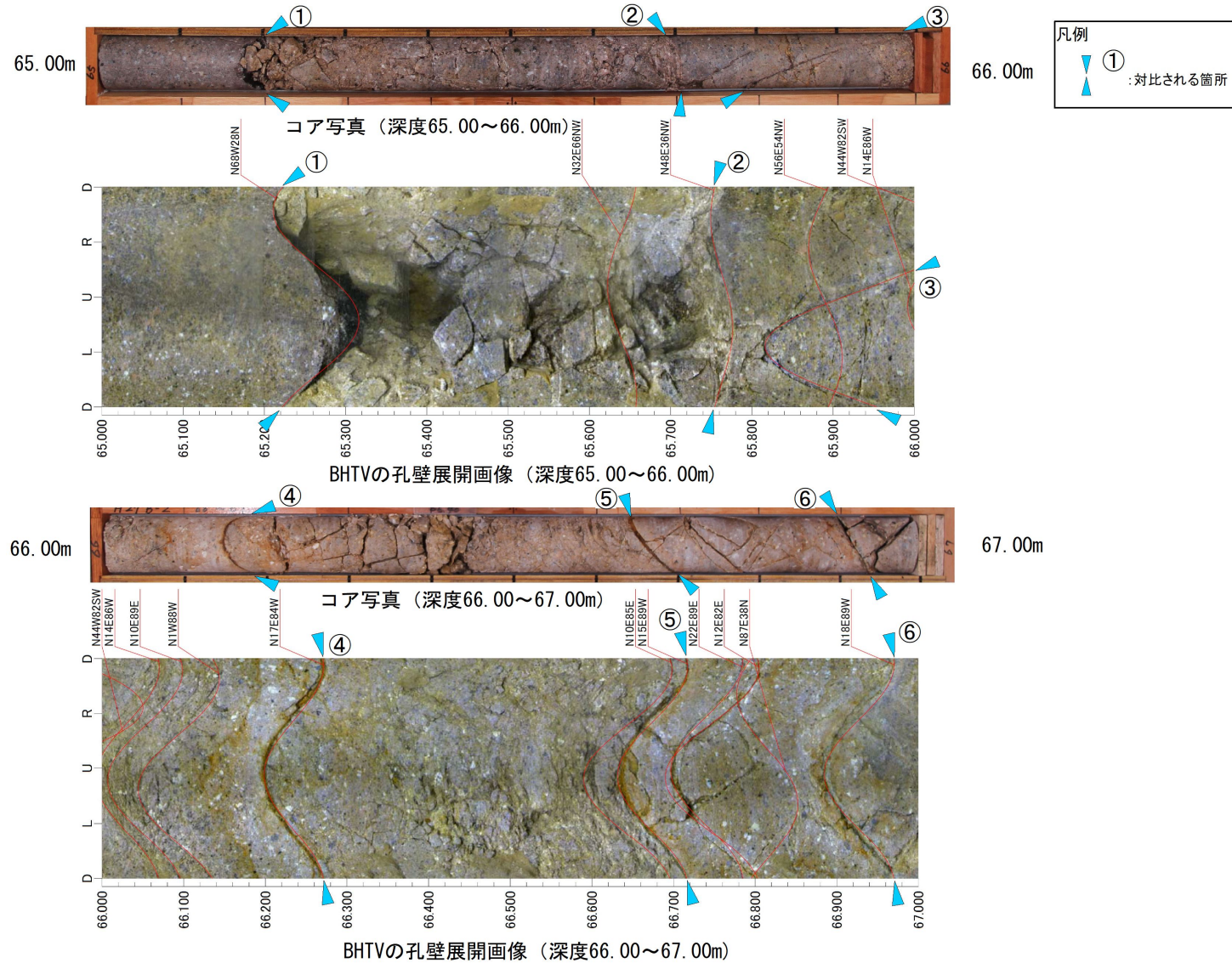
②H27-B-2孔 深度68.27～68.34m(2/4)

- 当該区間（68.00～69.00m）及び近傍区間（65.00～68.00m及び69.00～70.00m）のボーリングコアとボアホールテレビ（BHTV）による深度の対応状況を下記に示す。
- なお、深度69.00m以深のボーリングコアについては、孔壁崩壊物除去後にコア観察カードの作成を行っているため、コア観察カードの深度に関する修正は必要なかった。
- 上記の孔壁崩壊物は、孔壁展開画像より深度65.25～65.45m付近から供給された可能性が考えられる。



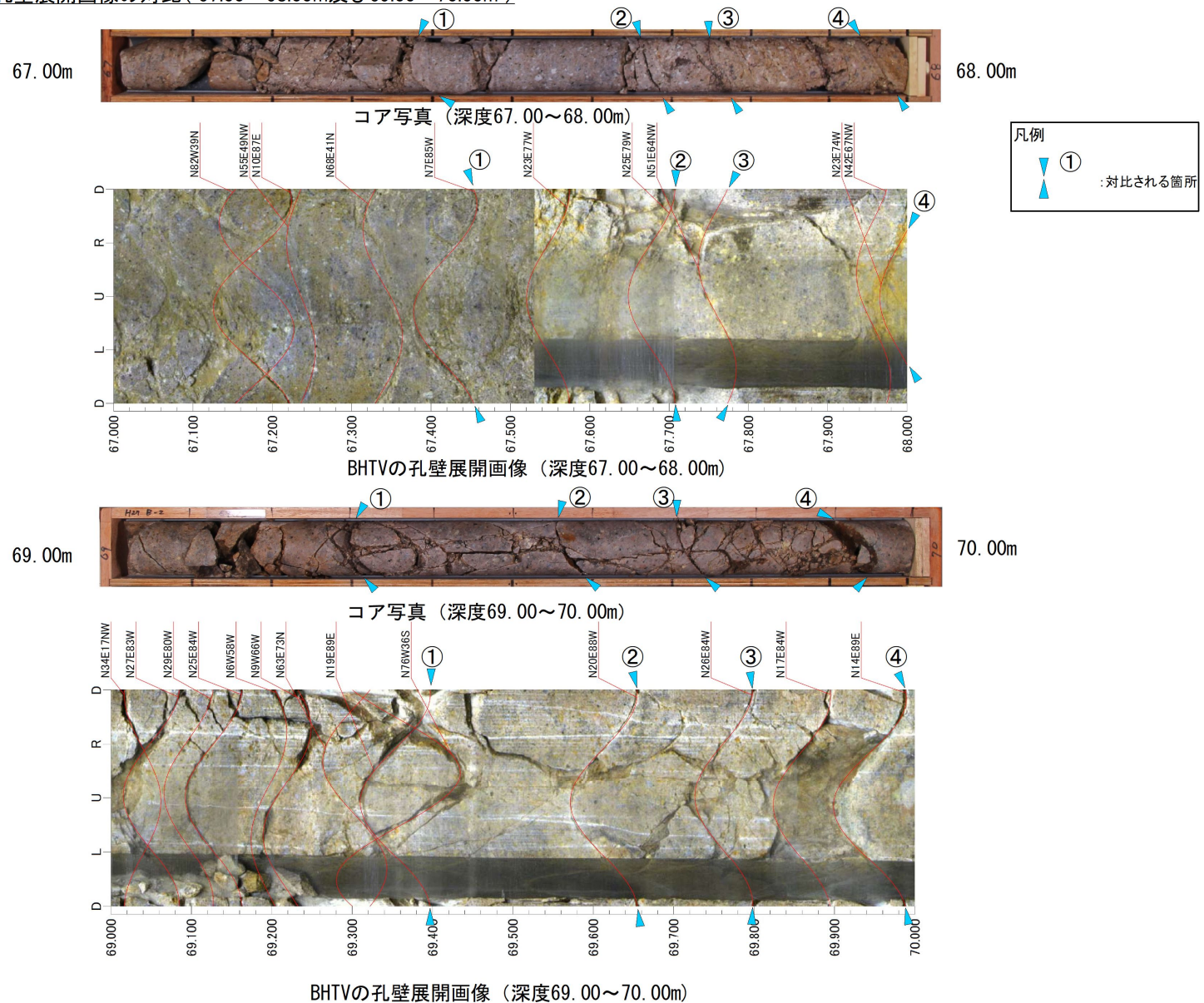
②H27-B-2孔 深度68.27～68.34m(3/4)

コア写真及びBHTV孔壁展開画像の対比(65.00～67.00m)



②H27-B-2孔 深度68.27～68.34m(4/4)

コア写真及びBHTV孔壁展開画像の対比(67.00～68.00m及び69.00～70.00m)



③H27-B-3孔 深度56.69～56.72m

- H27-B-3孔 深度56.69～56.72mの破碎部の記事に記載された×印については、コア観察カード作成時に実施した記載内容確認において破碎部ではない可能性も踏まえて、再確認が必要という意図で付けられた×印であった。(A)
- しかしながら、当該破碎部の再確認をした結果、当初のコア観察どおり破碎部とすることが適切であると判断し、再確認の意図で付けられた×印に対して「削除」と記載したものである。(B)
- したがって、当初のコア観察の所見は変更されていない。

(B) 削除 (A)

~~56.69～56.72m: 破碎部 (主断面56.72m)~~
~~56.69 56.72m: HJ~~
~~上端30°で掘削して、下端31°で直線的に連続。中3～10%硬土
 「2」主体の岩片と岩片間の一部が砂状～粘土化部からなり、「砂・
 粘土混じり岩片状」。主断面近傍では、斜に平行～平行な
 微細割れ目分布。色調は淡黄(2.5Y 7/3)～黄灰(2.5Y 6/1)。厚さ20mm。~~
~~56.72m: Hc-1~~
~~31°で全下端とも直線的に連続。φ1mm石英粒を数割に(5%以下)
 含む軟質粘土(砂)色調は淡黄(2.5Y 7/3)。厚さ1mm~~

56.72～57.29m: D
 割れ目に砂状の粘土。一部が砂状に硬質化
 中割れ目の一部は残留する。



コア写真 (深度56.00～57.00m)

※補足説明資料1 (破線追記)

破碎部



破碎部

第916回審査会合 机上配布資料1で示したコア観察カード
 (赤字, 赤矢印, 青枠及び青字追記)